森の生活

# 2015年度
# 年次報告書

## 森の生活のミッション

**森林を活かし、**
**人々の心豊かなくらしと**
**持続可能な地域づくりに貢献する。**

私たちはみんな「森の生活」を送っています。

森に囲まれた暮らしだけが森の生活ではありません。
日々の暮らしの中にある森から生まれたものについて想いを馳せてみると、私たちの暮らしが思いのほか森とつながっていることに気づきます。
しかし、直接森にかかわったり、森のことを考えたりする機会は少ないのではないでしょうか。

日本は森林率67％と世界でも有数の森の国です。
しかし、木材の多くを海外からの輸入に頼る一方、国内では森林が十分に活かされていない状況にあります。驚くことに、森が身近にある農山村においてさえ、多くの人々にとって、森は近いようで遠い存在です。かつて日本で行われていた暮らしの中に森を活かす文化を、今、新しい形で蘇らせられないでしょうか。

身近な森から生まれた製品を購入したり、休日を森で過ごしたり、森に関わる仕事に携わったり。
そんな機会を創造していくことで、農山村、都市の隔てなく広がる人の数だけある「森の生活」が、森を育て、そして一人一人の暮らしや人生をもっと心豊かにするはずです。

ＮＰＯ法人森の生活は、森のある暮らしを広める活動を通じて、人々と自然が調和した豊かな社会づくりに取り組みます。

目次


Ｐ１　森の生活のミッション
Ｐ２　2015年度活動ハイライト
Ｐ３　活動報告
　森の体験事業
　森のまちづくり事業
　森のめぐみを届ける事業
　伝える事業
P11　会計報告　エネルギー消費量
P12　中期３カ年ビジョン
P13　団体概要




## 2015年度活動ハイライト

### 森の体験事業

**子どもから大人まで、森で遊び、学ぶ機会を提供します。**

- 森林体験・視察プログラムを42件提供し、290人の方々にご参加いただきました。
- 自治体・企業・大学などの他団体と連携したオーダーメイドのプログラムを8件提供し、125人の方々にご参加いただきました。
- 指定管理者として管理運営を行う「森のなかヨックル」を、1,432人の方々にご利用いただきました。
- 森林環境教育を、延べ1,528人の子どもたちに23プログラム提供しました。

### 森のまちづくり事業

**住む人、訪れる人、どちらにとっても魅力ある、森を活かした地域づくりに取り組みます。**

- 指定管理者として管理運営を行う森林「美桑が丘」を延べ1,819人の方々にご利用いただきました。
- 小規模多機能自治を推進するために、住民自治の活動３件をお手伝いさせていただきました。

### 森のめぐみを届ける事業

**下川の森から生まれた体験・製品・物語を届けます。**

- 地域の広葉樹を木工用材として供給するしくみを構築し、「しもかわ広葉樹」としての利用提案を行いました。木工作家２名が下川に移住し、下川発の木工作品の生産がスタートしました。
- 体験・製品・物語を届けるwebサイト「森と暮らす」の訪問数は平均683/月でした。前年度（346/月）と比較して約２倍となったものの、webサイトからの問い合わせは４件と非常に低い状況にあり、抜本的な見直しが必要です。
- 下川の森の製品を販売する「森の生活のお店」コーナーを森の生活の事務所がある美桑が丘管理棟内に作りました。

### 伝える事業

**講演・執筆・調査研究・政策提言等を通じて、課題を伝え解決策を提案する活動に取り組みます。**

- ７件の講演を行い、約３００名の方々に森の生活の活動についてお伝えしました。

活動報告

# 森林体験事業

## 森林体験・視察プログラム

**42 件のプログラムを提供。290 人の方々にご参加いただきました。**

下川を訪れる方々に気軽に森や自然と接する機会を提供し、森のある暮らしづくりをお手伝いしています。

### プチ蒸留体験

森へトドマツの枝葉を取りに行き、精油づくりを行います。精油と芳香蒸留水はお土産としてお持ち帰りいただけます。

### 森林セルフケア

森の中で五感を研ぎ澄ませ、森の時間を感じながら、ゆったりとした森歩きや呼吸法を行い、心身の健康につなげます。

### 季節のもりさんぽ

季節ごとに魅力がたっぷりの「下川の森」のおさんぽプログラムです。

## オーダーメイドのプログラム

**8 件のプログラムを提供。125 人の方々にご参加いただきました。**

自治体・企業・大学などの他団体と連携し、数日間にわたりじっくりと森で学ぶ機会を提供しています。

### 子ども交流事業

下川の小学生 5,6 年生を対象に、横浜市戸塚区、京都府京丹波町、岐阜県御嵩町の小学生との交流体験をコーディネートしました。

### 御嵩町環境都市交流体験プロジェクト

岐阜県御嵩町の中学生 6 名を対象に、下川町の森林産業について学ぶプログラムを実施しました。

### 名寄市立短期大学児童学科 1 年体育実習

「本当の野生（自分）を見つけよう！～52 通りの才能～」をテーマに、学生 52 名が美桑が丘をフィールドにキャンプ実習を行いました。

### コープさっぽろオリジナルプログラム

下川町の森林資源の生産と活用について学ぶプログラムを提供しました。

### トヨタ自動織機オリジナルプログラム

北海道の冬の造材現場の現状に触れ、地域貢献への可能性を探るプログラムを提供しました。

### お客さまの声

・五味温泉の薬膳メニューとセットで季節の森さんぽに参加しました。身近な存在なのに、意外と行く機会の少ない森に入れてよかったです。

・エコハウスにも宿泊し、自然や森林を体験できて良かったです。町の恵みをフルに活用しているところが魅力的でした。

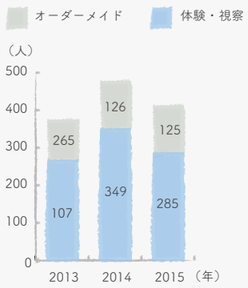
### 新たな取り組み

- 五味温泉ＨＰにて「季節のもりさんぽ」の情報発信を開始し、4 人に提供しました。
- しもかわ観光協会と連携し、視察プログラムとセットでの「森林ウォーク」の提供を開始し、6 人に提供しました。

### 現状の課題

- 下川や近隣地域の観光客にプログラムの情報を届けられていないため、webサイト等の広報ツールを活用した情報発信の強化が必要であると考えています。

### 参加者数の推移






森の体験事業

# 地域間交流施設「森のなかヨックル」管理運営事業

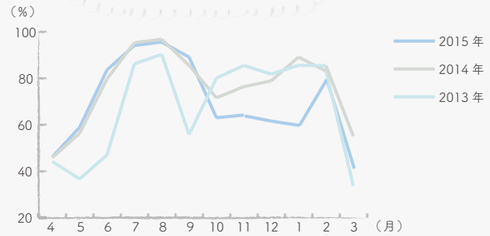
**1,432 人の方々にご利用いただきました。**

指定管理者として、地域間交流施設「森のなかヨックル」の管理運営を行っています。

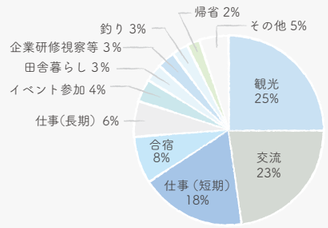
## 地域間交流施設「森のなかヨックル」

自炊可能なコテージ型の交流施設（4 名定員 10 棟、10 名定員 1 棟）で、長期滞在にも適しています。
市街地にも近く、まるで下川に暮らしているような気分で滞在いただけます。
夏場は道外のお客様のリピーターも多く、お客様同士の交流や地域の人との交流も年々増えています。
また、地域の方々には日常の交流の場や帰省時・自宅改装時などの住まいとしても利用されています。
その他、研修・合宿・出張時の宿としてなど幅広いニーズがあります。

### 2013～2015 年度 稼働率




### 滞在目的




今年度よりパート２名が加わり、基本的に毎日 12:00-18:00 はスタッフが常駐するようになりました。
これにより、滞在中のお客様への対応が素早く行えるようになりました。またヨックル事業担当者がこれまで着手できなかった課題に取り組める環境となり、今後、森の生活の他部門との連携・稼働率の低い季節の対策・広報などの活動を推進していきます。

## ヨックルガーデン

ヨックルに併設された有機栽培のガーデンで、地域のヨックルガーデンサークルのメンバーと運営しています。
ガーデンを楽しみにされているお客様も多く、滞在中は畑作業や収穫を楽しんでいただいています。

## ヨックル環境整備

### みくわのこみち作り

株式会社かんぽ生命さんからご寄付をいただき、ヨックルから美桑が丘へ通じる道を地域の方々と一緒に作るイベントを実施しました。ヨックルガーデンを通る部分には美桑が丘への道しるべとして木道を設置し、ガーデンの一部にも車いすでも入れる木道を整備しました。
入口には掲示板を設置し、ヨックルと美桑が丘周辺を散策できるような地図を掲示しました。今後は、その時々の旬な情報を発信していく予定です。

### ウッドデッキ周りの整備

木製の自転車小屋を新設し、周辺の倉庫なども移動して、ウッドデッキ周りが使いやすくなりました。お客様やガーデンサークルメンバーが自由に使えるガーデン用具置き場も作り、よりガーデン作業を楽しんでいただけるようになりました。

# 森林環境教育事業

## 延べ1,528人の子どもたちに23プログラムを提供しました。

下川町では、学校教育の中で継続的に学習を深めていくため、幼児センターから高校まで成長段階に合わせて目標を設定し、15年一貫で授業の中で森林環境教育に取り組んでいます。幼児センターではほぼ月に１回、小学生から高校生までは年に１度の実施です。プログラム内容は、森林環境教育プログラムＬＥＡＦ※に基づいて企画実施しています。

※ＬＥＡＦは北欧発祥の森林環境教育プログラムで、現在21カ国で取り組まれています。
日本ではNPO法人FEE Japanが活動を推進しています。
ＬＥＡＦでは、人間が持続可能な生活を送る上で、森林が重要な役割を担っていることを子どもたちに知ってもらい、学んでもらうことをビジョンとして掲げています。プログラムは、活動を中心とした参加型で実践的な方法を取り、多層的・複層的に森林を知ることができるよう、文化的、生態学的、経済的、社会的な森林の役割について考えさせる内容を目指しています。

## 2015年度実施プログラム

LEAFの6つのSTEP

**STEP1** 野外で楽しく遊ぶ

**STEP2** 自然を体感して気づく

**STEP3** 環境のしくみを理解する

**STEP4** 人間と自然の相互作用を理解する

**STEP5** 環境問題に自分なりの判断を下す

**STEP6** 未来に対して責任を持つ

### 下川町幼児センター

森のあそび

| | | |
|---|---|---|
| 4/23、5/20 | 春をみつけよう | ・森の生き物の観察を通じて、生き物の存在に気づく。<br>・春の森での草花や樹木の観察を通じて、四季の移り変わりに気づく。 |
| 6/2 | 親子遠足 | ・森のあそびに親子で参加することを通じて、森の活動の楽しさを共有する。 |
| 7/3、8/26 | 夏をみつけよう | ・森での草花や樹木、生き物の観察を通じて、夏を感じる。 |
| 9/4 | 秋の遠足 | ・絵本の読み聞かせや森の○× クイズを通じて、森について知る。 |
| 9/10 | 焼き芋 | ・森の落ち葉を使った焼き芋を通じて、火の不思議さを体感する。<br>・落ち葉に触れることで、秋の移り変わりを実感する。 |
| 12/16 | 冬をみつけよう | ・冬の森での遊びを通じて、四季の移り変わりを体感する<br>・冬の森が楽しい事を実感する。 |
| 2/10、26 | ソリすべり | ・雪国ならではの森のあそびを通じて、冬の森の楽しさを体感する。<br>・異なる森での活動を通じて、感性を磨く。 |
| 3/9 | 修了式 | ・１年間の森のあそびの振り返りを通じて、森での活動を思い出す。<br>・森の妖精による「修了証書」授与を通じて、また森に行くことが楽しみになる。 |

### 下川小学校

| | | |
|---|---|---|
| 8/25 | １年生　お気に入りの木を探そう | ・身近な自然をモチーフにした作品をつくることで地域の自然に対する愛着を育む。 |
| 6/15 | ２年生　樹種とその特徴を知ろう | ・五感を使った観察（木の色、形、手触り、におい）を通じて、多種多様な樹種があることを知り、森林への興味・関心を高める。 |
| 6/22、23、7/21 | ３年生　樹種とその特徴を知ろう | ・樹木の葉や幹の観察を通して、多様な樹種があることを知る。<br>・五感を使った観察を通して、樹木の特徴を多角的に捉える。 |
| 5/21、22、9/18 | ４年生　森づくりについて学ぼう | ・下川町植樹祭への参加をきっかけに、木を植え、育てる活動への興味・関心を高め、下川町の循環型森林経営について理解する。 |
| 5/21、22、9/8 | ５年生　森づくりについて学ぼう | ・下川町植樹祭への参加をきっかけに、木を植え、育てる活動への興味・関心を高め、下川町の循環型森林経営について理解する。 |
| 8/26、27、28 | ６年生　木材製品と生活について考えよう | ・樹種や木材を詳しく知り、マイ箸づくりを通して木材製品への関心を高め、自分の生活の中でできる選択について考える。 |

### 下川中学校

| | | |
|---|---|---|
| 6/4 | ２年生　炭材採取 | ・炭焼き体験を通して地域の環境と働くことの意義について考える。 |
| 5/22 | ３年生　植樹祭 | ・下川町植樹祭への参加をきっかけに、木を植え、育てる活動への興味・関心を高め、下川町の循環型森林経営について理解する。 |
| 5/21、6/12、29 | 全学年　炭焼き学習 | ・炭焼き体験を通して地域の環境と働くことの意義について考える。 |

### 下川商業高校

| | | |
|---|---|---|
| 10/7 | １年生　下川商業高校 × 士別翔雲高校 キャンパス交流 | ・下川の取り組んでいる森林の利活用法について理解を深める。<br>・下川商業高校生と士別翔雲高校生の交流を深める。 |
| 10/19 | ２年生　下川町の森の仕事 | ・森林の経済的価値について理解を深め、森林や林業に関わる仕事について考える。 |
| 5/22 | ３年生　植樹祭 | ・下川町植樹祭への参加をきっかけに、木を植え、育てる活動への興味・関心を高め、下川町の循環型森林経営について理解する。 |



## 森林環境教育関係者会議

計画・評価・改善のプロセスに関係機関（教育機関・教育委員会・役場）の参画を促し、森林環境教育を協働の体制で進めていくため、「下川町森林環境教育関係者打ち合わせ会議」を2回実施しました。（2014年度は1回）
2015年4月：計画・目的について
2016年1月：評価・改善について
4月の会議の際、関係者が意見を出し合い、下川町の森林環境教育の目標も明文化しました。

### 下川町の森林環境教の目標

・身近な自然における学びや楽しみを通じて人間的な成長を育む。
・地域の資源である森林を活かす仕事について理解を深める。
・森林の役割や地域の取り組みについて考え、持続可能な社会に向けて自ら行動できる人を育む。

## 実施体制

外部講師 →（協力）→ NPO法人 森の生活 ←（業務委託）← 下川町（教育委員会 森林総合産業推進課）（協力）

NPO法人 森の生活 →（実施）→ 町内児童・生徒（下川町幼児センター、下川小学校、下川中学校、下川商業高校）

### 先生方への実施後アンケート

プログラム実施後には先生方へのアンケートを行い、定量的な評価をもとに、プログラムの改善に努めています。

＊５段階評価で、１が低い評価、５が高い評価。（N＝18）

| 設問 | 平均値 |
|---|---|
| A. 活動の目標が事前に共有できていましたか。 | 4.1 |
| B. 活動の目標が達成できましたか。 | 4.2 |
| C. 子どもたちにとって興味を持って取り組める内容でしたか。 | 4.1 |
| D. 生徒自身の気づきや学びを尊重した内容でしたか。 | 4.1 |
| E. 森の生活との連携の意義を感じる内容でしたか。 | 4.6 |
| F. 安全に活動できましたか。 | 4.6 |
| G. 学校で学習している関連単元の理解を深めることに役立ちましたか。 | 3.6 |

## 中学校技術教材 本棚キット

中学校の技術の教科書には、「材料と加工に関する技術」という単元があり、材料と加工に関する技術と社会・環境や循環型社会に関する説明もあるのですが、実際に中学校の木材製作で使用される教材はほとんどが産地不明の材。この状況に疑問を感じ、地域材を使って子どもたちにものづくりをしてほしいという想いから、下川中学校の技術担当の先生と森の生活で話し合い、下川町の木材加工会社フォレストファミリー株式会社にも協力していただき、下川町産材を使った中学校の技術用教材を作成しました。同じ材料から、教科書サイズの本棚か辞書サイズの本棚の２タイプを作れます。パンフレットには、制作方法だけでなく教科書に関連した森づくりについて理解を深めるページも掲載しています。
2015年度は下川中学校の技術科教材として採用され、１年生22人が実際に地域材での本棚製作に取り組みました。

「北海道下川産トドマツで作る本棚キット」
一般価格　2,200円 / 個（税込）
学校価格　1,700円 / 個（税込）
＊サンプルをご希望の際はお気軽にご相談ください。

製作した生徒の声
・トドマツは色がやさしくてきれい。
・自分の住んでいる下川の木材を使って下川ならではの作品が作れてうれしい。
・こういう木工品があると、家の雰囲気も良くなるから早く使いたい。

### プログラム例：高２「下川町の森の仕事」

| | |
|---|---|
| 9:30【町有林・山土場】 | 町有林の活用、森林組合の仕事 |
| 10:00【山本組木材株式会社】 | 製材現場見学、製材の仕事 |
| 10:30【下川フォレストファミリー株式会社】 | 集成材・クラフト工場見学 |
| 11:00【木質原料製造施設】 | チッパー機見学 |
| 11:30【下川町役場】 | バイオマスボイラー見学<br>町長から下川町の取り組みの話<br>質疑応答 |
| 12:30【下川商業高校２年生教室】 | ・下川町の森の仕事について整理<br>・自分が就いてみたい仕事ごとにグループで模造紙にまとめ<br>・発表、意見交換 |

町有林で風倒木を見る

製材現場見学

参加した生徒の声
・「循環型社会」の意味がよくわかった。
・下川にはたくさんの森に関わる仕事があることや、その仕事内容を知ることができた。
・将来の就職先の候補として、下川の森に関わる仕事も考えていきたい。

森のまちづくり事業

## 美桑が丘管理運営事業

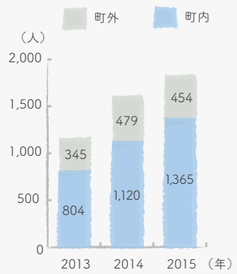
### 延べ 1,819 人の方々にご利用いただきました。

下川町中心部近くにある放置されていた雑木林「美桑が丘」をフィールドに、子供からお年寄りまでが世代間交流をしながら森の手入れを行う場づくりを行っています。

「みくわの小道」

株式会社かんぽ生命保険さまからご寄付をいただき、これまで周知されていなかった森のなかヨックルから美桑が丘に続く「みくわの小道」を整備しました。どなたでも日常的に利用できる小道です。

利用者数の推移




### 主な活動

**こくわの日**

（子育てクラブ「カナカナ」）
未就学児や赤ちゃん連れの保護者と、森のあそび場・学び場を行っています。

**名寄市立短期大学総合演習**

（名寄市立短期大学児童学科）
通年で自然保育を実践的に学ぶゼミ演習を実施しています。

**森のサロン会**

（合同会社ひまわり）
お年寄りの健康促進を目的に、春と秋の２回サロン会を開催しています。

**みくわの日**

（みんなのたまり場グループ）
月に１回、子どもからお年寄りまでみんなが美桑が丘で自由に過ごせる場を地域の方々とともにつくっています。

**森のあそび**

（下川町幼児センターこどものもり）
月に１回、幼児対象の森林環境教育「森のあそび」のフィールドとして活用しています。

### 2015 年度までの美桑が丘の経緯

2010 年度　・下川町が、美桑が丘の用地を取得。

2012 年度　・森の生活が指定管理者に決定。

2013 年度　・森の生活主催で毎月一度、誰もが美桑が丘で自由に過ごすことのできるイベント「みくわの日」をスタート。
・町民との協働で美桑が丘の場づくりについて話し合う、「活動報告会」および 2014 年度計画づくりワークショップ「みくわ集会」を２回実施。そこで、利用者が主体となった４つの活動グループが発足。

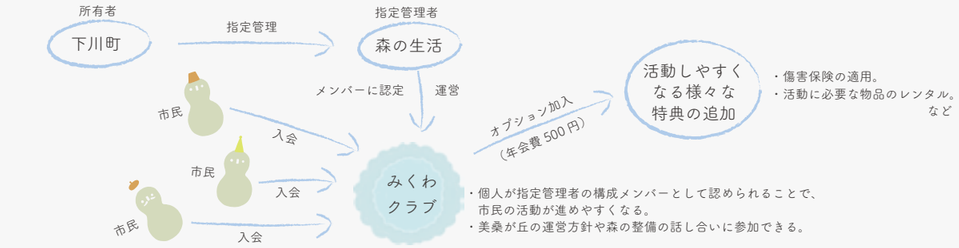
2014 年度　・毎月一度の「みくわの日」の運営を活動グループ「みんなのたまり場グループ」と協働で行っていく体制へと変化。主催は森の生活で、運営を活動グループが主体的に担うようになる。
・毎月一度、活動グループ間の情報共有、美桑が丘の場で活動しやすい仕組み作りについて話し合う「みくわミーティング」がスタート。森の整備計画について話し合う「森づくりミーティング」も発足。
・利用者主体の活動グループが増加、８つの活動グループが活動を展開するようになる。

2015 年度　・活動グループや利用者の多様化に伴い、利用者が美桑が丘の場づくりについて話し合う仕組みとして入会条件等を定めた「みくわクラブ」を始動。「みくわミーティング」「森づくりミーティング」もこの枠組に統合し、メンバーや話し合う内容について明確化。



### みくわクラブ

美桑が丘をフィールドに活動する方々がより活動をしやすくなるしくみです。
入会することで活動しやすくなる様々なメリットを受けられます。




## 協働促進事業

### 小規模多機能自治を推進するために、住民自治の活動 3 件をお手伝いさせていただきました。

下川町から小規模多機能自治推進調査委託業務として実施しました。

### 住民自治の必要性

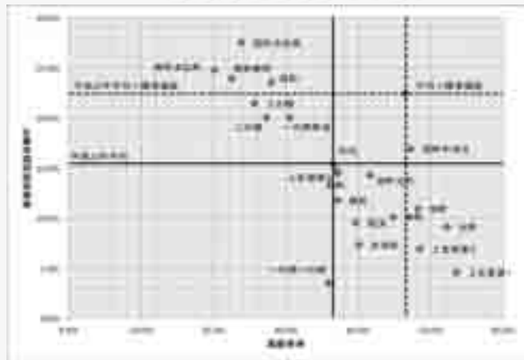
下川では人口減少が進行しており、現在約 3,400 人の人口が 2050 年には半分以下の1,600 人台にまで減少するという試算があります。また、介護支援が必要となる可能性の高い 85 歳以上の高齢者１人に対する生産年齢（15 歳以上 65 歳未満）人口も全国的に減少しつつあり、下川は全国平均の約半分という状況にあります。

これまでの「現役世代から高齢者へ」という再分配によって成立していた公共サービス依存型の自治から、「元気な高齢者」を始めとする住民が主役になり課題解決を担う小規模多機能型の住民自治の推進が緊要となっています。

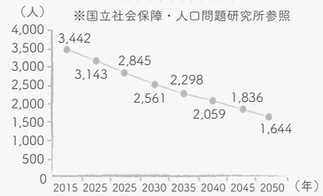
### 地域特性の把握

下川の地域ごとの特性を把握するために、高齢者率と１８歳未満同居世帯率で散布図を作成すると、公区ごとに状況が異なることがわかります。子どものいる世帯率の高い地域と、高齢者率の高い地域とでは地域で必要となる取組みが異なる可能性があります。地域の状況を把握した上で、各地域ごとに取組みを行っていくことが重要です。

下川町公区別 高齢者率 ×18 歳未満同居世帯率



下川町の人口推移




85 歳以上高齢者１人あたりに対する生産年齢人口
（生産年齢人口 /85 歳以上人口）

※国立社会保障・人口問題研究所参照

| | 全国 | 下川町 |
|---|---|---|
| 1995 年 | 55.2 人 | 29.8 人 |
| 2015 年 | 15.0 人 | 6.6 人 |
| 2035 年 | 6.2 人 | 3.7 人 |

### 住民が主体となった取組みの実践

**高齢者の見守り体制の構築【一の橋】**

高齢者の見守り体制を構築するために、関係者間で情報共有を行う会議を実施し、今後も継続的な活動を予定しています。

**全住民アンケートの実施【新町】**

公区役員と連携し、住民ニーズを把握し活動にいかすための全住民（中学生以上）アンケートの作成・配布・回収・分析を行いました。

**高齢者の居場所づくり【共栄町】**

牧村旅館の活用方法として高齢者の居場所づくりを行うため、利用者として想定される高齢者を集め、活用方法についてヒアリングを行いました。

森のめぐみ
を届ける事業

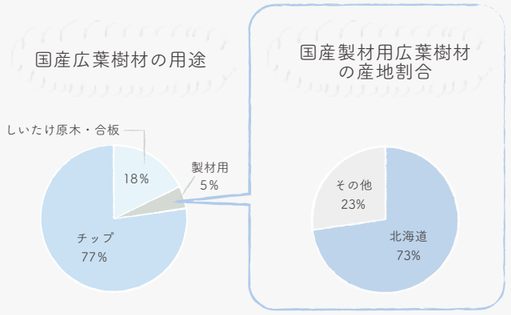
## 森の製品開発事業

**地域の広葉樹を木工用材として供給するしくみを構築し、「しもかわ広葉樹」としての利用提案を行いました。**
**木工作家 2 名が下川に移住し、下川発の木工作品の生産がスタートしました。**

### ほとんどがチップにされている広葉樹

広葉樹材は木工用の材料として広く活用されていますが、製材用の広葉樹材はそのほとんどを外国産に依存しています（日本有数の家具産地である北海道旭川でも、使用する材料のうち8-9割は外国から輸入しているそうです）。国産製材用の広葉樹材のうち、約７割を北海道産が占めており、北海道の広葉樹資源の豊富さを物語っています。しかし、広葉樹材を用途別に比較すると、８割弱がパルプやバイオマス燃料としてチップにされている状況にあります。北海道にはミズナラ、タモといった木工での利用価値の高い樹種が多いものの、例に漏れずその多くがチップにされています。事業者へのヒアリングを通じて、この状況を生む背景には、広葉樹は出材量が少ないため、原木車による運送コストに見合うだけの量を確保することが難しいという課題があることがわかりました。

原木車



※平成23年度森林・林業白書参照

### 小規模多品目の木材流通システムの構築

上記のように有効活用されていない地域の広葉樹材を活用するために、少量の広葉樹でも木工用材として供給することのできるしくみを構築しました。（しくみの構築には、下川町をはじめ、造材では下川森林組合、越智重機林業（株）、運材では下川運輸（株）、製材では山本組木材（株）にご協力をいただきました。）

※流通調達等に、平成27年度農山漁村振興交付金を活用しています。

### 木材の活用

12月1日、みなとモデル木材製品展示会にて、関東の企業にご協力いただき、「しもかわ広葉樹」としてプロダクトへの利用提案を行いました。

ご協力いただいた方々の声

国産材
の需要は高まる
ものの杉や桧が多く下
川の広葉樹（特にナラ）
は貴重な存在です。素材
の個性が好きな方やそ
れを活かしたい人
には適材と
言えます。

（株）京和木材
青木 健太郎さん

仕入れ
た魚がどこで水揚
げされたものなのか、
どんな姿の魚なのかさえ
全く知らずに寿司を出す
板前。そんな板前のよう
な木工従事者に少しで
も気付きを与える
きっかけにな
ると思い
ます。

（株）drawers
鈴木 大輔さん

工業製
品化・既製品化し
た木製品では育まれな
い感性、幸福感。自然のま
ま素材のままの寸法、木目
を活かした設計・デザイン
を施す事で生まれる
「くらし」の在り方
を提案したい
と思ってい
ます。

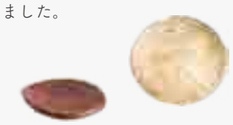
（株）Tree to green
村上 赤水さん



拠点を下
川に移したのは、森や木材
を無駄にしないものづくりがここな
らできるのではないかと思ったからです。
チップにされてしまう広葉樹の中には、立派なも
のがたくさんあります。それを有効に利用したいと丸
太で入手し、これまで一部の作品に使ってきましたが、製
材・乾燥されたものは入手できませんでした。今回の森の生
活さんの取り組みによって、それが可能になりました。これま
で製材されていなかった地域で育った広葉樹が、地域で製材・
乾燥され作品になる。それは森にも環境にも自分の気持ちにも良
いものです。森を大切に想いながら、これからもものづ
くりをしていきたいと思います。

### 木工作家さんの移住

地域の木材で作品づくりを志すクラフト作家さんが下川に移住し、連携を開始しました。



クラフト蒼
臼田健二さん

## 森の直売事業

### 森と暮らすサイト

**体験・製品・物語を届ける web サイト「森と暮らす」の訪問数は平均 683 / 月でした。**

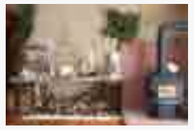
前年度（346/月）と比較して約２倍となったものの、web サイトからの問い合わせは４件と非常に低い状況にあり、抜本的な見直しが必要です。

### 森の生活のお店

**下川の森の製品を販売する「森の生活のお店」コーナーを森の生活の事務所がある美桑が丘管理棟内に作りました。**

下川の土で土壁を塗り、森の生活の木工用材でテーブルや棚を作るなど、下川産にこだわってスタッフで手作りしました。森の生活オリジナル商品の下川産みつろうキャンドルや、森の生活の木工用材を使ってくださっている企業の製品、町内の森のめぐみを活用している企業の製品などを販売しており、訪れた方々に好評を得ています。

※土壁作りには、瀬川悦弘様（土の提供）・野田左官店様（土の配合 / 道具の提供）にご協力いただきました。



伝える
事業

## 講演・執筆

**7 件の講演を行い、約 300 名の方々に森の生活の活動についてお伝えしました。**

### 主な講演・ワークショップ

5 月 13 日　下川町高齢者学級総合開講式での講話【下川】
6 月 4 日　JICA″ REMOTE SENSING OF FOREST RESOURCES″ での森林環境教育の講義【下川】
8 月 19 日　第 33 回開発教育全国研究集会 in 北海道【札幌】
　第３分科会「地域資源を活用したまちづくり～眠っている魅力をどう活かすのか～」での講演
12 月 15 日　北星学園大学での講義【札幌】
　野原 克仁准教授のゼミ生のみなさん（2・3 年生）への講義
12 月 19 日　AEAJ 地区イベント　アロマセミナー【広島】
　AEAJ（（公社）日本アロマ環境協会）「地区イベント アロマセミナー」での講演

## 会計報告

### 活動計算書

2015年4月1日～2016年3月31日

（単位：円）

| | |
|---|---|
| **Ⅰ 経常収益** | |
| 会費 | 150,000 |
| 寄付金 | 2,036,002 |
| 事業収益 | 38,637,863 |
| その他収益 | 107,050 |
| **経常収益　計** | **40,930,915** |
| **Ⅱ 経常費用** | |
| 事業費 | |
| 人件費 | 11,701,507 |
| その他経費 | 22,366,500 |
| **事業費　計** | **34,068,007** |
| 管理費 | |
| 人件費 | 4,628,307 |
| その他経費 | 221,220 |
| **管理費** | **4,849,527** |
| **経常費用　計** | **38,917,534** |
| **当期経常増減額** | **2,013,381** |
| **当期正味財産増減額** | **2,013,381** |
| **前期繰越正味財産額** | **10,897,456** |
| **時期繰越正味財産額** | **12,910,837** |

### 資産貸借表

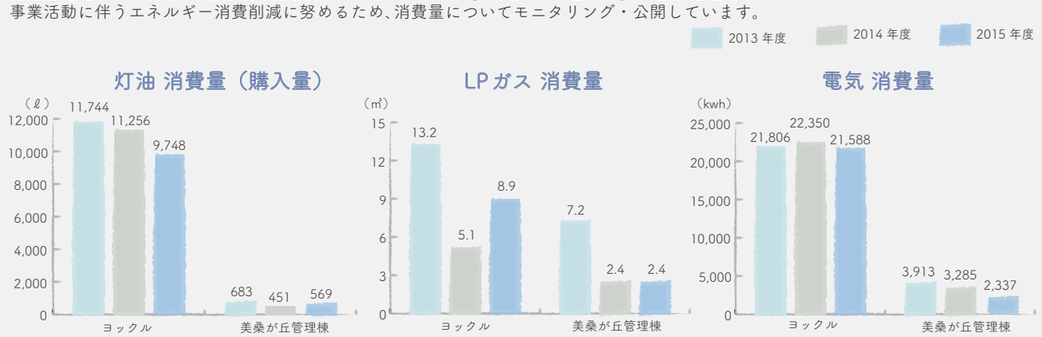
2016年3月31日 現在

（単位：円）

| | |
|---|---|
| **Ⅰ 資産の部** | |
| 流動資産 | |
| （現金・預金） | |
| 現　　金 | 847,818 |
| 普通　預金 | 9,774,684 |
| 現金・預金　計 | 10,622,502 |
| （売上債権） | |
| 売　掛　金 | 6,497,624 |
| 売上債権　計 | 6,497,624 |
| （有価証券） | |
| 有価　証券 | 60,000 |
| 有価証券　計 | 60,000 |
| （棚卸資産） | |
| 棚卸　資産 | 808,786 |
| 棚卸資産　計 | 808,786 |
| （その他流動資産） | |
| 前払　費用 | 30,000 |
| その他流動資産 計 | 30,000 |
| **流動資産　合計** | **18,018,912** |
| 固定資産 | |
| （有形固定資産） | |
| 一括償却資産 | 153,936 |
| 有形固定資産　計 | 153,936 |
| （投資その他の資産） | |
| 出　資　金 | 20,000 |
| 投資その他の資産　計 | 20,000 |
| **固定資産　合計** | **173,936** |
| **資産合計** | **18,192,848** |
| **Ⅱ 負債の部** | |
| 流動負債 | |
| 買　掛　金 | 96,832 |
| 未　払　金 | 4,031,717 |
| 預　り　金 | 56,762 |
| 未払法人税等 | 70,000 |
| 未払消費税 | 1,026,700 |
| **流動負債　計** | **5,282,011** |
| **負債　合計** | **5,282,011** |
| **Ⅲ 正味財産の部** | |
| 正味財産 | |
| 前期繰越正味財産額 | 10,897,456 |
| 当期正味財産増減額 | 2,013,381 |
| **正味財産　計** | **12,910,837** |
| **正味財産　合計** | **12,910,837** |
| **負債・正味財産　合計** | **18,192,848** |

## エネルギー消費量

指定管理者として施設「地域間交流施設　森のなかヨックル」「美桑が丘管理棟」の管理運営を行っています。
事業活動に伴うエネルギー消費削減に努めるため、消費量についてモニタリング・公開しています。






## 中期3ヶ年（2015-2017年）ビジョン

### 1．下川の森から生まれた製品・サービスと人をつなぐしくみづくり

- 下川の森から生まれたサービス・製品を、森と暮らすサイトやヨックルと連携を図りながら、多くの人に届けます。
- web サイト「森と暮らす」による、下川の森から生まれた「製品・サービス・物語」のプラットフォーム整備と収益化を行います。
- ヨックルの客室に、森から生まれた製品を取り入れ、循環型生活モデルハウス化計画に取り組みます。

### 2．地域材を活かす事業の実証

- 下川・旭川・札幌等で木工に取り組む人々に、広葉樹木工用材を供給するしくみをつくることで、地域材の活用を広めます。
- 地域材を使った学校教材を開発し、子どもたちが地域の木材を使って学べる機会を生み出します。

### 3．協働の推進

- 行政からの継続的な委託事業や指定管理者として管理運営を行う施設等に関して、事業評価と情報発信などを行い、行政・関係機関・市民と協働してまちづくりを行う体制をつくります。
  －行政からの委託事業・・・・・・・・・・・森林環境教育、子ども交流事業
  －指定管理者として管理運営を行う施設・・・体験の森、美桑が丘、地域間交流施設ヨックル

### 4．全道的な森林保全・活用の促進

- 道内自治体の森林保全および活用状況を可視化し、保全・活用の促進に向けて提言を行う「森を知り・活かす白書（仮称）」を発行します。

# 団体概要

| | |
|---|---|
| 名称 | 特定非営利活動法人　森の生活 |
| 代表理事 | 麻生 翼 |
| 理事 | 児玉 光、普久原 涼太、黒井 理恵 |
| 幹事 | 渡邊 大介 |
| 設立 | 2005 年 11 月 |
| 会員 | 47名（正会員 22 名・賛助会員 25 名）<br>法人賛助会員 5 社<br>※2017 年 1 月時点 |
| 住所 | 〒098-1204　北海道上川郡下川町南町 477 番地 |
| 電話 | 01655-4-2606 |
| FAX | 01655-6-7007 |

**法人賛助会員団体（五十音順）**

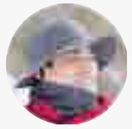
・株式会社ウェルトレーディングサービス
・株式会社キートス
・株式会社サンテック
・空知単板工業株式会社

## 森の生活　年表

| | |
|---|---|
| 1997 年 | 移住者を中心とした団体「さーくる森人類」発足。森づくりや森林・林業体験事業などを実施。 |
| 2002 年 | 下川産業クラスター研究会の「自然療法プロジェクト」が森林療法をはじめとする自然療法の研究を開始。 |
| 2005 年 | 「さーくる森人類」を母体として NPO 法人森の生活設立。代表に奈須憲一郎が就任。<br>森林療法を事業の柱の 1 つに据え、森を活かした体験プログラムやツアーの提供を開始。 |
| 2006 年 | 「下川町幼児センター　こどものもり」の児童を対象にした森の中での保育活動「森のあそび」を開始。 |
| 2008 年 | 下川町森林組合から移管を受け、トドマツ精油製造販売事業を開始。 |
| 2009 年 | 指定管理者として「地域間交流施設　森のなかヨックル」の管理運営を開始。<br>幼児・小・中・高校一貫の森林環境教育事業を開始。 |
| 2012 年 | 精油製造販売事業担当者が新たに立ち上げた「株式会社フプの森」にトドマツ精油製造販売事業を移管。 |
| 2013 年 | 指定管理者として「美桑が丘」の管理運営を開始。事務所を美桑が丘管理棟に移転。<br>代表理事に麻生翼が就任。 |
| 2015 年 | 有効活用されていなかった広葉樹材を活用するために小規模多品目の木材流通事業を開始 |



# 理事・スタッフ



代表理事
麻生 翼

理事
児玉 光

理事
普久原 涼太

理事
黒井 理恵

森林体験
美桑が丘管理運営
富永 紘光

森林環境教育
佐藤 咲子

森の製品開発
谷目 基

総務
児玉 こずえ

『森のなかヨックル』
管理運営
成田 菜穂子

『森のなかヨックル』
管理運営
森づくり技術指導
中山 誠一

『森のなかヨックル』
管理運営
小日向 妙子

『森のなかヨックル』
管理運営
白川 百合子

『森のなかヨックル』
管理運営
山田 緑

森の生活では活動をご支援してくださる方々を募集しています。

## 会員になる

HPからお申し込みください。

・正会員

年会費 5,000 円（個人のみ）

森の生活の総会議決権を持つ「活動の担い手」として、森の生活の運営や活動方針の検討に関わってくださる方々。

・ファンクラブ会員（賛助会員）

年会費 3,000 円（個人）　10,000 円（法人）

下川や森の生活を応援してくださる「活動の応援団」の方々。

## 寄付する

下記口座への寄付も受け付けております。
おあずかりしたご寄付は活動に大切に使わせていただきます。

寄付・お振込先

・銀行振込

北星信用金庫下川支店　普通口座　1018801
特定非営利活動法人　森の生活　代表　麻生翼

・郵便振替

02760-6-41851　特定非営利活動法人　森の生活

森の生活

特定非営利活動法人 森の生活　2015 年度年次報告書

2017 年 1 月発行

本報告書の内容に関するお問い合わせは下記までお願いいたします。
特定非営利活動法人　森の生活
〒098-1205　北海道上川郡下川町南町４７７番地
TEL：01655-4-2606　　FAX：01655-6-7007
E-mail　info@morinoseikatsu.org

この報告書は、環境に配慮した紙とインクを使用しています。